

目指す学校像	府内有数の良質な進学校
重点目標(運営指針)	授業を最重視し、良好な教育環境の維持に努める
	在校生と保護者のニーズに応えるよう努める
	在籍生徒の充実感・満足感、保護者の、満足感が高まるよう、質の高い教育の実践に努める
	円滑で効率的な業務遂行に努める
	学校改善を推進する

達成度観点
A…ほぼ達成80%
B…概ね達成60%
C…変化の兆し40%
D…不十分40%未満

【総括】学校関係者評価

学習面では新しい学力観に基づく「考える学力」の育成が、ALなどの授業や総合的な学習での取り組みは見られたものの、まだまだ試行の段階で、生徒への効果や実際の数値には表れていない。ハード面の遅れも改善が必要な部分。生徒指導の部分では一部の者に規範意識のゆるみがあり、不徹底な部分があり、学園全体のモラル低下を感じさせている。いじめ防止はアンケートなどで対処療法的には対応しているが、人権教育という側面からも、生徒の心に届くいじめを生じさせない指導ができていない。進路指導においては、ほぼ満足のいく結果であり、就職から大学受験まで、丁寧な指導によって目標に届いたと言える。全体的に見て決して不足というわけではないが、どの分野にしても、もう少しの努力と細部の詰めや検証によって、さらに良い結果につながるような面が多い。学園全体が全てに関して持っている「あと一歩」と言える。

領域	項目	具体的目標
学習指導	知識、技能の習得	授業を大切にし、定期考査や演習も活用しながら基礎学力を定着させる
	考える学力の修得	ALやICTなどを利用した対話的、深い学びにより判断力、思考力、表現力を身につける
生徒指導	規範意識を持たせる	きちんとした身なりで、気持ち良い挨拶をし、マナーを守る学校生活を送るよう指導する
	人権意識を育てる	HR活動や行事を通じて、他者を尊重し、配慮や思いやりのある人間性を育てる
	いじめ防止	いじめ対策委員会によるアンケートなどいじめの早期発見と解消に取り組み、いじめのない学園生活を維持する
進路指導	希望進路の達成	就職希望者100%達成の他、各コースとも生徒の希望進路実現を目指す
	進学実績の伸長	進学系の生徒においては、高いレベルの進学実績を達成する。

高校部自己評価		
達成状況	達成度	改善案
授業アンケートから9割以上の生徒が授業に対して高評価をしていることから、各コースに応じた授業が進められていると判断できる。しかし、学力の定着には課題が残る。	A	課題プリントや小テスト等を小まめにすることにより学習の継続を図り、その場しのぎの知識にならないように工夫する必要がある。成績の見える化をして生徒各自の達成感を高めるような取り組みが効果的である。
一部の授業ではプロジェクターの使用やスマホを活用しているが、ハード面の拡充が待たれるのが現状である。ALについては徐々に取り組みがなされている状況である。	C	ICTについてはハード面の整備が拡充される必要がある。ALを効果的に行うために総合的な学習を体系的に位置づけ、目標設定に向かって取り組ませる形態を構築する必要がある。
おおむね良好であるがルーズな面が見え隠れする。	B	良い、悪いが誰からもよくわかるようにし、悪いを許さない姿勢を学園が持つ必要がある。善悪の判断を生徒自ら下せるようにすると共に、違反を繰り返す生徒には厳しい指導が必要である。
学校行事を通してクラスでの協力は図られている。	B	特別活動や人権教育の年次計画や学期ごとの取り組み計画を作成し、生徒にも教員にもわかりやすい形で取り組みができるようにすべきである。
いじめアンケートの結果をもとに面談等の取り組みの結果、1学期から2学期にかけ成果が表れている。	A	日々の観察と定期的な面談、アンケートにより目が小さいうちに発見、対処を心掛けることが大切である。
就職希望は29/31とおおむね決定をしている。各コース別に最後まで取り組んでいる状況である。	A	各種ガイダンスや面談を通してそれぞれの目標設定を早い段階で行い、それにむけた取り組みをしっかりとっていく指導が必要である。進路に向けた関心、知識、それに見合う学力をつけるという意識を持たせる指導が必要である。
指定校やAOの利用により、早い段階で実力以上の栄冠を手に入れている生徒が多くいる。	A	意識を高く持たせることがまず必要と考えられる。目標に到達するためにとるべき行動を一つ一つ理解させていくことで実力の伸長を図る。

中学部自己評価		
達成状況	達成度	改善案
①学力推移調査を取り入れ、学力の定着度の分析を行い対策を考える。②教科担任連絡会を通じて、各教科の個々の達成度を確認し、補習等に生かしていく。	B	行事等で、授業の確保が十分とはいえない。補習や、個別指導などを行っているものの、授業確保が大切だと考え、行事等の見直しを検討する。
各教科で、ALやチームティーチングやグループワークに取り組みつづける。	C	ICT機器の導入や授業への活用について、各教員が研鑽を深める機会を持つ。
①生徒指導部主催の服装点検を年5回実施。ほぼ身だしなみは整っている。②挨拶・マナーについては、登校指導やHRを通じて指導。気持ち良い挨拶の徹底とまでは至っていない。	A	挨拶・マナーについては、生徒会を中心に生徒主導の形でさせ、生徒同士で意識の向上を図る。引き続き、身だしなみやマナーの継続的指導を行い、規範意識を育てる。
①道徳で年6回ほど学ぶ機会を与えている。ワークシートを書かせ、理解の確認をしている。②体育祭・文化祭の活動を通じて、人間性の向上に取り組んでいる。	B	その場では理解ができて、身につけているかと言えばまだまだといえる。多様性を知り、理解させる機会を今以上に持つことが必要。LHRをより有効に使っていく。
いじめ対策委員会を月1回開催し、情報を共有し、いじめの早期発見に努めている。また、いじめアンケートを毎学期実施し、実施後の面談を通して、状況把握を怠らないようにしている。	A	いじめ防止基本方針に基づき、引き続きいじめのない学校づくり、安全・安心な学校づくりを目指す。
外部高校受験希望者に対しては、適切な指導により第1志望校への進学を達成させた。	A	家庭の都合による場合はやむを得ないが、可能な限り、流出は防ぐ必要がある。

通信制課程自己評価		
達成状況	達成度	改善案
通学コースを中心にたいへん落ち着いた学習態度で、各自がレポートに取り組んでいる。在宅コースの生徒も第1、第3土曜日の学習相談日で支援できた。	A	次年度はさらに、各種検定試験や模擬試験にチャレンジさせ、各個人のステップアップを図り、進路達成に活かしていきたい。
学習は、個々で取り組んでいるため、全体学習の場を設定している。	B	普通授業の形態が、確立できず、全体的なコミュニケーションには欠けているので、授業を工夫する必要がある。
頭髪や服装に関して、注意を必要とする生徒は皆無。	A	生活指導は徹底して、現在のセンター内の雰囲気を変えないように努める。
定期的に集団活動や校外学習を主宰し、他者との関係や思いやり、社会貢献の意識を高めることができた。	A	懇親会や校外学習、クッキングスクールなどに加え、ボランティア活動などへの参加も考えて、人間性をさらに高める時間を設ける。
アンケートではなく、スタッフによる個人面談で各自の変化を見て、情報共有をした。	A	個人シートを活用し、スタッフ全員で気付いたことを書き込めるようにして、情報共有をさらに進める。本年度と同様にミーティングを活用して意見交換をする。
進路面談を続けて、卒業予定者ひとり一人の進路達成を目指す。	B	在宅コースの生徒との面談が、難しく間隔が開くことが多い、地道に一人ずつ丁寧な指導を続け、進路希望に則した進路達成・就職内定に努める。
本年度、公立大学、薬学部に進路達成を実現した。	A	各種模擬試験を受験させ、本人の実力をよく分析して、進路実績に繋げる。英語力強化に時間をかけて高いレベルの合格を達成する。